

設立趣旨書

特定非営利活動法人ごっこ屋本舗

設立代表者 椋本薫

1 趣旨

この法人は、「疲弊する地方農山村を中心とした国内事業者に対し消費者との橋渡し等の各種支援と消費者に対する健全な生産消費活動の啓蒙を行い、その過程で得た様々なノウハウを元に地方と都市の商業ネットワークに不可欠な都市部小売業者の育成やいわゆる田舎が自立した経済発展を遂げるための方法を模索研究するとともに、次世代を担う子供たちにも実体験を含む学習の機会を設ける等、地方の過疎化高齢化等の諸問題を含め現在の日本の抱える問題点を将来に亘って解決する方法を蓄積・発信・実践する事で、活力あるよりよき日本の姿を取り戻す一助となす」ことを目的とする。

2 申請に至るまでの経過

この法人の理事長就任に同意している中村重行は京都市京北北山地区の産業並びに観光の振興を目的として私費を投じて「もう一つの京都・北山杉に写す京都北山展」という名称の展示会を過去幾度も成功させている。

2013年9月5日、同展示会の奈良展が開催された際に併設のサロンスペースで有志が集い過疎化問題と地方産業の現状についてのディスカッションを行い「1.過疎問題の原因の一つはその地域の産業が疲弊している事」であり「2.住民の高齢化解消の為は、その地域で若い世代が生計を営むことの出来る産業が不可欠である事」、「3.いわゆる田舎の産業を復興・新興させる為には消費地の都市部とのネットワークが必要である」との結論を得、参加メンバーで定期的な会合を催す事を約した。

その後、数度の会合を重ねる事で、大手小売店によって過大な価格競争を強いられ淘汰される小売事業者という都市部の病巣も話し合わせ、「良き物やサービスを適価で」という消費者が当然持つべき価値感が既に失われ、大手企業が提供する画一的で安価な商品にのみ価値を見出している現状を改善しなければ、国内の小規模産業が壊死してしまうという危機感に捉われ、有志にて啓蒙活動などを行うべきである事を強く感じ、また国内事業者にもまた消費者の求める良質な商品やサービスを提供して自立できるだけの力を蓄える様援助する活動を行うべきであると確信した。

その方法を模索する為にまず手始めとして我々は現状苦戦している地方を中心とした個人事業者や零細中小企業の良品を発掘し、都市部消費者に紹介する場を設け、また都市部の既存小売業者や新規開業希望者とともに良質の生産者消費者関係を再構築する為の実践の場とする事とした。

それを行うに辺り、公益性のある社会的な活動である事と個人の責任範囲、そして活動の継続性を鑑み、個人参加での任意サークル活動では十分な財政面と社会的な信用を確保できないと結論付け、多くの賛助者・協力者を得た活動の継続性を担保するための財政基盤を整える為、本取り組みを特定非営利活動法人として責任ある立場で運営する必要に思い至ったのである。